

「長期入院の子どもに笑顔を贈る贈り物事業」

特定非営利活動法人 子ども劇場千葉県センター

長期入院の子どもたちにクラウン、マジックなど、プロによる舞台芸術に出会う場を設け、子ども期に必要なワクワクする気持ちや笑顔になる楽しい時間を過ごし、前向きな気持ちを持つことができるようなプレゼントをすることが出来ました。

実施病院：国立病院機構 下志津病院

公演プログラム名：「アンディ先生のマジックショー」マジックファクトリー

日時：2015年11月4日(水) 14:00~15:00
 場所：第6・第7病棟プレイルーム
 参加者人 70人
 子ども53人(高校生以上) 保護者3人
 病院関係者14人(看護師3 保育士5
 児童指導員3 療養介助員2 実習生1)
 出演者：アンディ先生 モンブラン

公演内容

ハトのマジック、フォーク曲げ、消えた指輪・人間瞬間移動イリュージョン、スクリーンマジック(カードの妖精が数字をあてる、つぶれた缶が復活、ペットボトルの中にカードがはいるなど) 他



ひとつひとつのプログラムに「おー!えー!わー!」と驚きの声があがり、「うんうん」とうなずきながら楽しんでいました。マジックの手伝いに「ハイ!」と手があがり、とてもうれしそう。



公演後、写真撮影がいつまでも続き、マジックのプレゼントににっこりし、何度もおねだりしていた。部屋に帰った男の子が戻ってきて、アンディ先生とモンちゃんと触れあい、とても嬉しそう。



子どもの声

- ・テーブルマジック(トランプのやつ)がすごかった。何度みてもトリックがわからないので驚いた。
- ・マジックというより魔法が使えるのかと思うほど不思議だった。

保護者からの声

- ・入院して1年以上すぎたところで少し退屈に感じていたところ、親子でとても楽しませてもらえた。
- ・生でみる機会がないので嬉しかった。

病院関係者からの声

- ・病院での日常生活の中でのイベントは、日々の生活に潤いを与えてくれるものであり、精神的にも大きく影響していくものだと思う。精神面は身体にも影響してくるので、今後もこのような催しがあればいいと思う。
- ・長期入院生活となると日常生活も単調になりがちですが、驚いたり、感動したり、笑ったりすることで活力が湧いてくると思う。

実施病院：国立国際医療研究センター国府台病院

公演プログラム名：「びりとブッチーのクラウンニングシアター」蒼い企画

日時：2015年11月20日(金) 14:30~15:30
 場所：第3病棟ホール
 参加者人 49人
 子ども37人(小学生8 中学生29)
 病院関係者12人(医師3 看護師8 教師1)
 出演者：びりとブッチー

公演内容

- ・オープニング・黄色いハンカチのマジック
- ・皿回しに挑戦・ボールのジャグリング・ドラムとサクスの演奏「オーバーザ・レインボー」
- ・鳥かごの中の花とねじ回しの人形パントマイム 他



風船を膨らますブッチーがもっともっとと言うと、「こえー」と、耳をふさぐ子が続出、その後の展開に皆くすくす笑った。一番のりりの小学生の男の子が皿回しに挑戦、真剣な顔で大成功。



チョコはどっち?では、ニヤニヤのわらい顔でびりの反応に「あっち」とか思わず声をだし、そのうち本気になって身ぶり手ぶりでびりに教えていた。最後の鳥かごのパントマイムのストーリーにみんなくぎ付けで見入っていた。



子どもの声

- ・ブッチーが風船をいっしょに膨らませていたのがすごかった。あれやってみたくて面白かった。
- ・かばんのパントマイムがすごい。さいごのロボットのような動きが好き。
- ・途中からでも楽しかった。
- ・サクスの音がすごいきれいでした。次は、一曲まるまる聞いてみたい。たのしかった!! 時間があつという間だった。
- ・二人の息がぴったりで、このショーをするのにすごいたくさん練習したんだなあと思った。楽しくて面白かったです。

病院関係者からの声

- ・約1時間集中して1つのものを観るということは大変なことだが、良く頑張ったと思う。笑顔が見られたのがうれしかった。
- ・自分から部屋を出てくることは勇気がいる。遠くからでもよく見てくれたと思う。
- ・最後の方に見に来た子、出てこられるとは思ってなかった。すごい。見られてよかった。